

### 東公民館の経過

- S54年5月開館。勤労者福祉センター等と合築。
- YMCA 国際福祉専門学校の誘致に伴い、H26年4月、東コミセンへ仮移転。
- 令和元年度：年間利用者数6,285人

### 老人福祉センター文庫山学園の経過

- S55年6月、高齢者の学習・教養・趣味・娯楽・健康・交流の場として開館。
- R元：年間利用者数30,598人(117人/日)
- 移転の必要性：急な坂道、国道27号との出入りの危険性、駐車場不足のため、現在地からアクセスしやすい場所への移転が課題

### 東公民館と文庫山学園の集約化の必要性

- 高齢化の進展(約40年間で高齢者数2.7倍)
  - ☞高齢者施策が充実・向上、専門・分化
  - ☞文庫山学園の役割が、結果的に次第に縮小  
例：介護予防事業、シルバー人材センター 外
- 文庫山学園に残った機能のうち、生涯学習・文化教養の機能が公民館と相当程度重複
  - ☞集約化・一体化で、より多様な事業メニューが提供可能に
- 体操教室など元気な高齢者の健康増進事業
  - ☞まなびあむや公民館を会場に実施

### 「市民病院跡地利用方針」

(H27年3月策定)

- H25「市民病院跡地利用あり方懇話会」で議論、市民2千人アンケート  
⇒提言書提出
- 基本方針「市民の健康増進と多様な交流・賑わいの拠点」を目指す。
- 整備方針
  - ★公共施設の移転集約化
  - ★民間活力の導入
- 南棟・東棟 勤労者福祉センター、シルバー人材センター

### 旧市民病院西棟の整備内容

- 整備のコンセプト  
健康増進と多様な交流・賑わいの拠点
- 各階の構成
  - 1階(877㎡) JAにのくに、農産物直売所、カフェ
  - 2階・3階(各708㎡) 多世代交流施設、新舞鶴・三笠地域包括支援センター
  - 4階(708㎡) 簡易宿泊施設
- 事業費9億9,132万円
- R2年1月、地方創生拠点整備交付金の交付決定、7月着工

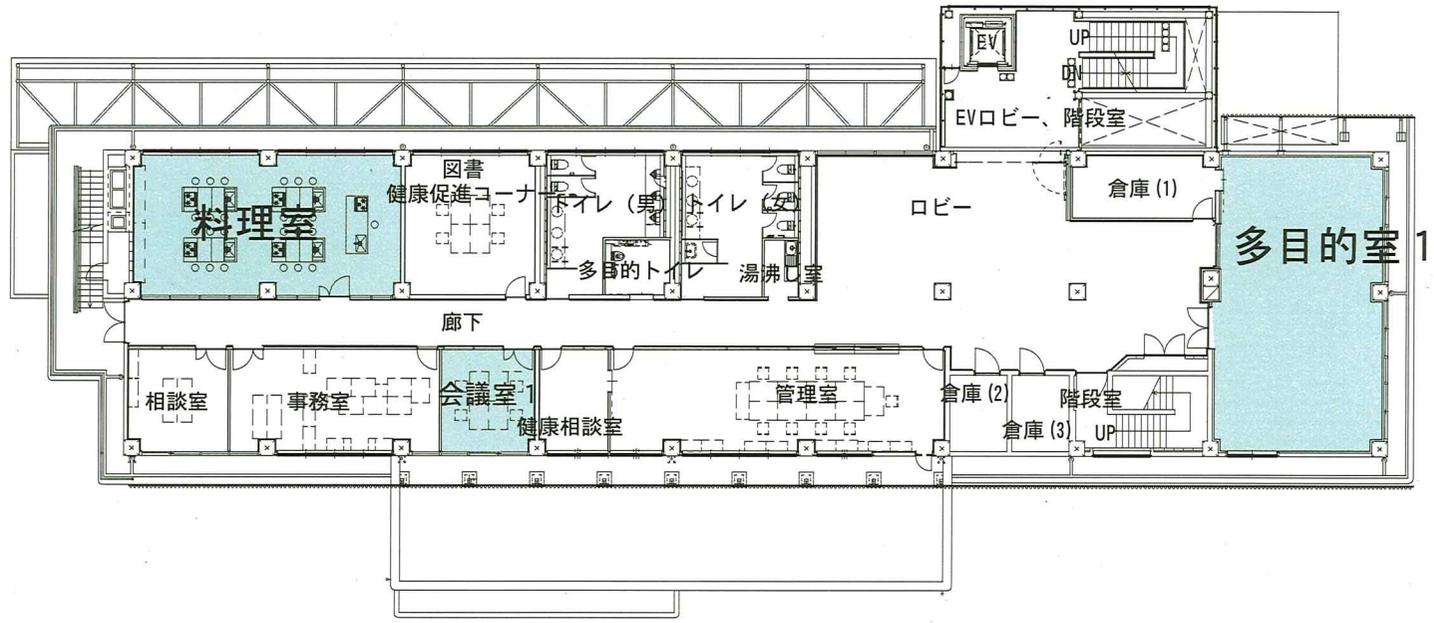
### 多世代交流施設の役割・必要性

- 地域社会の現状  
人々のつながりの希薄化、社会的孤立、地域社会の担い手不足、世代間交流の乏しさ
- ☞「ゆるやかに人がつながる地域」が必要
- ☞高齢者の知恵や経験を次世代へ伝え  
☞高齢者は若い世代からスマホなど現代の知恵を学ぶ

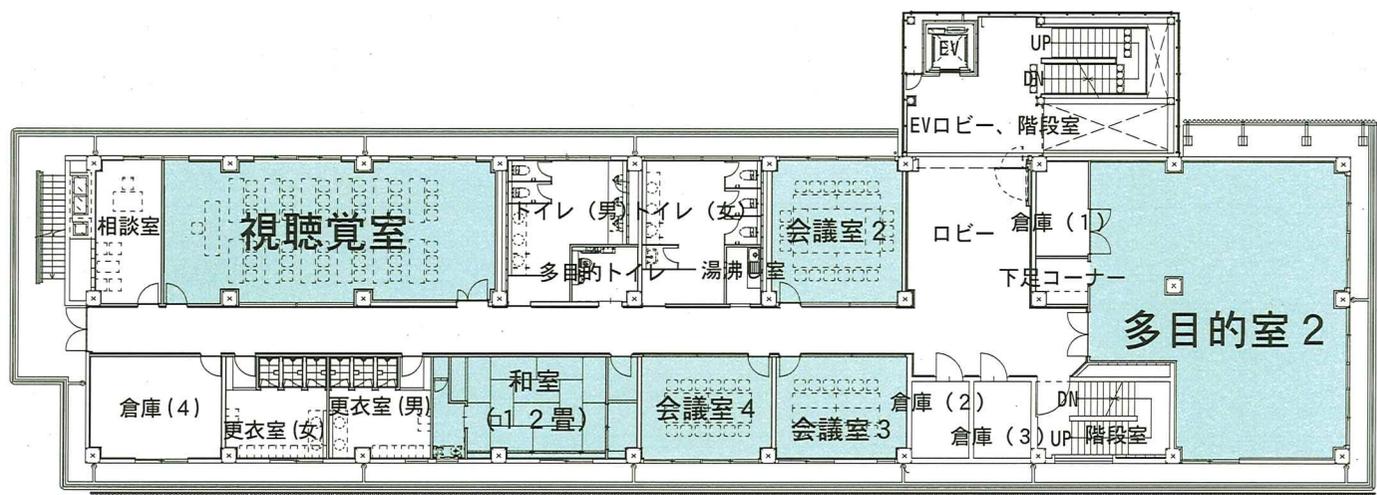
### 多世代交流施設管理運営基本方針

主な利活用の姿

- (1)ゆるやかに人がつながる地域を実現する場～多世代交流を促す新たな拠点施設、市民の社会参画の機会の拡充～
- (2)生涯学習の場
- (3)高齢者の健康増進の場
- (4)老人クラブ・同連合会の活動の場
- (5)社会貢献・地域貢献、ボランティア活動など非営利公益的活動の場
- (6)新たな公共施設のあり方検討の場  
～ポストコロナ社会に向けた公共施設の実証実験の場(ICT環境の整備・活用)～



2 階 平 面 図



3 階 平 面 図